

柏の景気情報（平成20年12月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年12月分）

○ 調査期間 : 平成20年12月15日 ~ 11月19日

○ 調査対象 : 柏市内109事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	109	77	70.6%
建設	19	12	63.2%
製造	24	16	66.7%
卸・小売	43	32	74.4%
サービス	23	17	73.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年12月の調査結果のポイント】

《業況DIが再度60ポイント台へ 先行き不安感がさらに深まる》

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.6(前月水準▲55.6)、マイナス幅が8.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業▲50.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲70.5(同▲56.2)、製造業▲68.7(同▲55.5)、卸小売業▲62.5(同▲58.0)である。

【建設業】では「この不況では、不動産業界・建設業界は一番先に手控えられるので大変な状況」(一般土木建築工事業)、「政治の不安、マスコミの過大放送が影響しているように思われる」(管工事業)、「故障などによる緊急の工事はあるが、先行の設備工事は少ない」(電気工事業)といった業界不況に関するコメントが寄せられた。

【製造業】では、「新規建物が減少、建築士法及び建築基準法改正による確認申請の遅れあり、市場の景気の悪化」(一般産業用機械設備製造業)、「企業の死活問題で、ぎりぎりとの声も聞こえ始めている」(その他の機械・同部分品製造業)、「マンション・倉庫等の計画中止が続いている」(生コンクリート製造業)等のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「消費を促進するような要素が何もないように思う」(食料・飲料卸売業)、「ファッションマーケットの規模がかなり縮小している。また、小売りの飽和状態が厳しさに拍車をかけている。近隣市町村からの来店者が大幅減少」(百貨店)、「昨今の経済情勢に厳しさが増し、消費者も敏感になって青果物の購買についても、少量買いの傾向になっています。青果卸の現状は入荷減の単価安は依然として続いています」(食料・飲料卸売業)、「商店会の歳末売出しの福引券の売り上げが昨年より二割以上減となった。すなわち、個人店の売上は2割減は確定と思う」(書籍・文房具小売業)といった、厳しい現況への様々なコメントが寄せられた。

【サービス業】では「宿泊は稼働率減。単価微減。売り上げ・利益減。宴会は売上増。コストアップ。利益は減」(ホテル)、「近隣の大型店舗もやめていくこの状況の中で維持していくのが難しい」(そば・うどん店)、などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安

各業種から「いろいろな面で先行き不安感が高まる」(一般土木建築工事業)、「今年は何とか乗り切れる予定だが、来年1月からの業況は全く予想ができない現状」(家庭用機械器具小売業)、「原油高・米国金融不安は直接影響はないものの、お客様の心理不安による買い控えが多い」(電気工事業)、「政治経済の不安から先が見えてこない。いつまで営業できるか不安である」(食堂・レストラン)、「原材料高騰が続いている。この先の変化が読めない」(獣医業)など、見通しのつかない現況に対する声が多くあがってきている。

◎消費意欲の低下

各業種から「団塊の世代のシェアが他地域より大きい当地域において、金融証券市場の混迷は将来に大きな不安をもたらす。それが食料品以外の商品に対する購買を控えるという購買意欲に表れている。また、現役世代も売上の大幅減や望み薄の昇給などから同様。こうした購買意欲の低下は当分続くものと思う」(百貨店)、「消費者の財布のひもが固い。他店との価格の比較購入が顕著である。移転しても様子見だけで帰る顧客が出てきた(即決しない・できない)夕方の顧客の上がりも早くなった」(その他の飲食料品小売業)、「2月度は月初入店客数は前年並みの推移となったが、売上高は前年を下回る推移となった。2週目以降雇用不安の影響から個人消費が一段と冷え込んだ感があり、入店客数・売り上げ共に苦戦した」(各種商品小売業)といった声が多く寄せられた。

◎業況悪化

各業種から「世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者も仕事を集めるのに苦労している状態」(その他の機械・同部分品製造業)、「来年はかなり厳しい状況になる。しかし将来への投資は続け行きたい」(生コンクリート製造業)、「賞与月にも関わらず、景況は一段と悪くなっている。年末イベントを立ち上げたが、まったく盛り上がらない」(その他の各種商品小売業)、「売上が非常に落ちている。人手不足や客数の減少、さらなる厳しい状況が来年もまた続く」(そば・うどん店)など、厳しさをます業況に対するコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 26.3	▲ 70.3	▲ 35.2
8月	▲ 55.0	▲ 68.7	▲ 38.8	▲ 55.1	▲ 58.8
9月	▲ 55.1	▲ 75.0	▲ 52.9	▲ 48.2	▲ 50.0
10月	▲ 65.3	▲ 66.6	▲ 64.7	▲ 63.3	▲ 68.7
11月	▲ 55.6	▲ 50.0	▲ 55.5	▲ 58.0	▲ 56.2
12月	▲ 63.6	▲ 50.0	▲ 68.7	▲ 62.5	▲ 70.5
見通し	▲ 55.8	▲ 58.3	▲ 68.7	▲ 46.8	▲ 58.8

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.6(前月水準▲55.6)、マイナス幅が8.0ポイント拡大した。

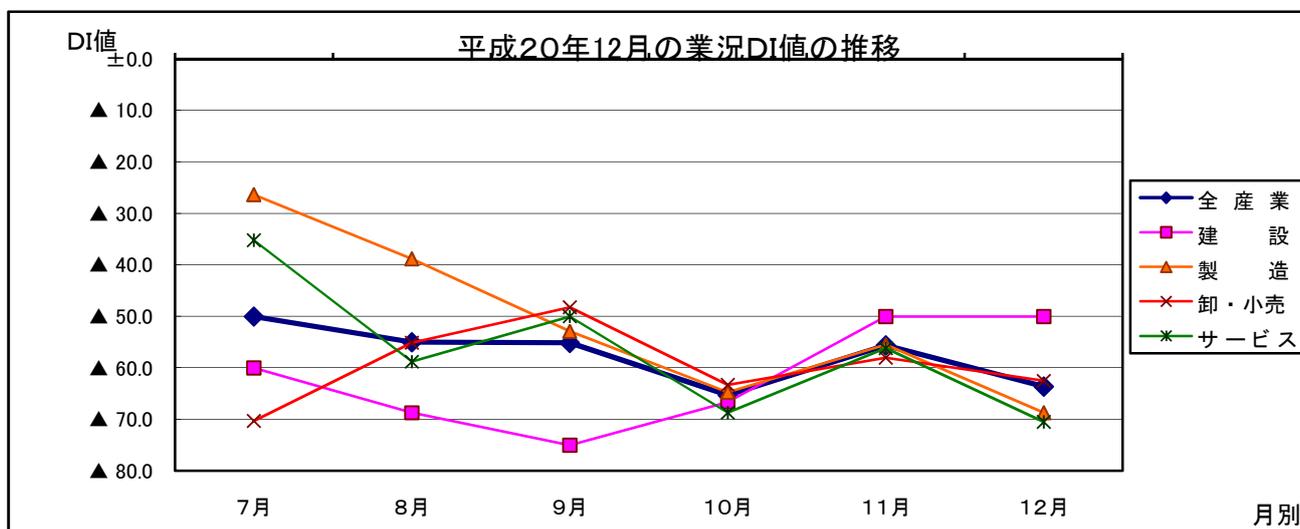
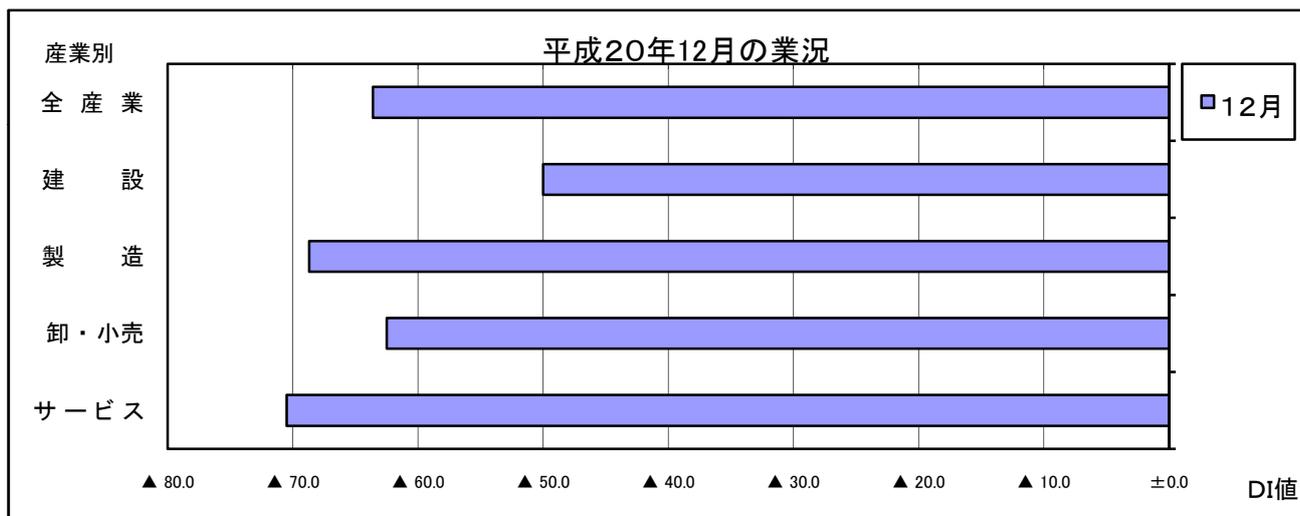
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業▲50.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲70.5(同▲56.2)、製造業▲68.7(同▲55.5)、卸小売業▲62.5(同▲58.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲55.8(前月水準▲49.3)となり、マイナス幅が▲6.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲58.3(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲68.7(同▲55.5)、サービス業▲58.8(同▲50.0)、卸小売業▲46.8(同▲38.7)である。

平成20年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し	
	7月						1月~3月	12月~2月
全産業	▲50.0	▲55.0	▲55.1	▲65.3	▲55.6	▲63.6	▲55.8 (▲49.3)	
建設	▲60.0	▲68.7	▲75.0	▲66.6	▲50.0	▲50.0	▲58.3 (▲64.2)	
製造	▲26.3	▲38.8	▲52.9	▲64.7	▲55.5	▲68.7	▲68.7 (▲55.5)	
卸・小売	▲70.3	▲55.1	▲48.2	▲63.3	▲58.0	▲62.5	▲46.8 (▲38.7)	
サービス	▲35.2	▲58.8	▲50.0	▲68.7	▲56.2	▲70.5	▲58.8 (▲50.0)	



【平成20年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.5(前月水準▲34.1)となり、マイナス幅が▲7.4ポイント拡大した。

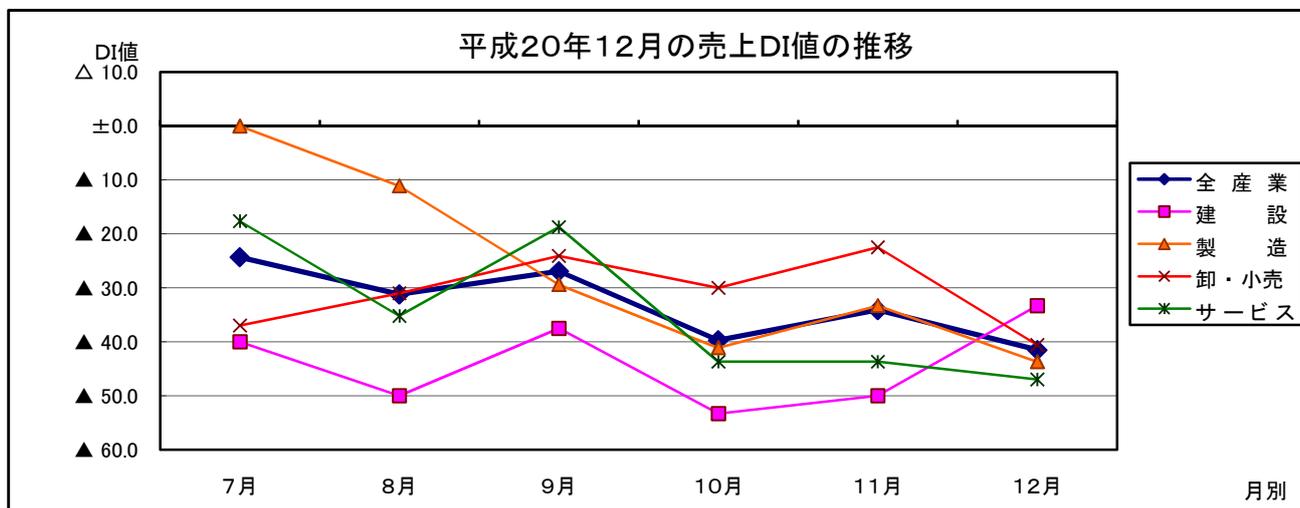
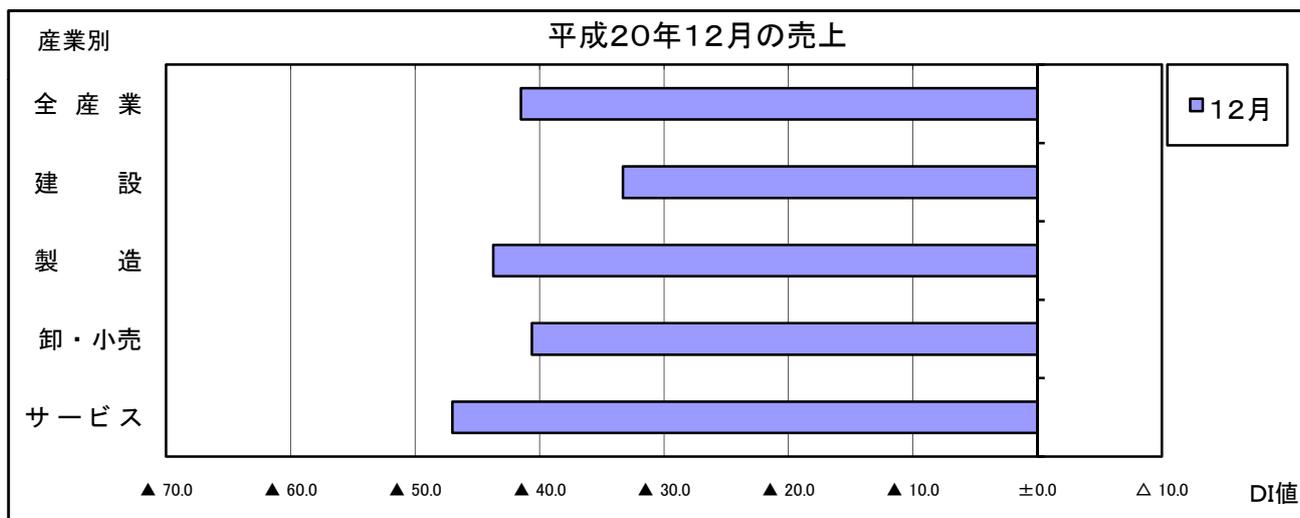
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.6(同▲22.5)、製造業▲43.7(同▲33.3)、サービス業▲47.0(同▲43.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲45.4(前月水準▲31.6)となり、マイナス幅が▲13.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲29.4(同▲62.5)であり、マイナス幅が△33.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、建設業▲50.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43.7(同▲6.4)、製造業▲62.5(同▲33.3)であり、いずれもマイナス幅が▲20ポイント以上大幅に拡大する見通しである。

平成20年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲24.3	▲31.2	▲26.9	▲39.7	▲34.1	▲41.5	▲45.4(▲31.6)
建設	▲40.0	▲50.0	▲37.5	▲53.3	▲50.0	▲33.3	▲50.0(▲50.0)
製造	±0.0	▲11.1	▲29.4	▲41.1	▲33.3	▲43.7	▲62.5(▲33.3)
卸・小売	▲37.0	▲31.0	▲24.1	▲30.0	▲22.5	▲40.6	▲43.7(▲6.4)
サービス	▲17.6	▲35.2	▲18.7	▲43.7	▲43.7	▲47.0	▲29.4(▲62.5)



【平成20年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.7(前月水準▲50.6)となり、マイナス幅が▲9.1ポイント拡大した。

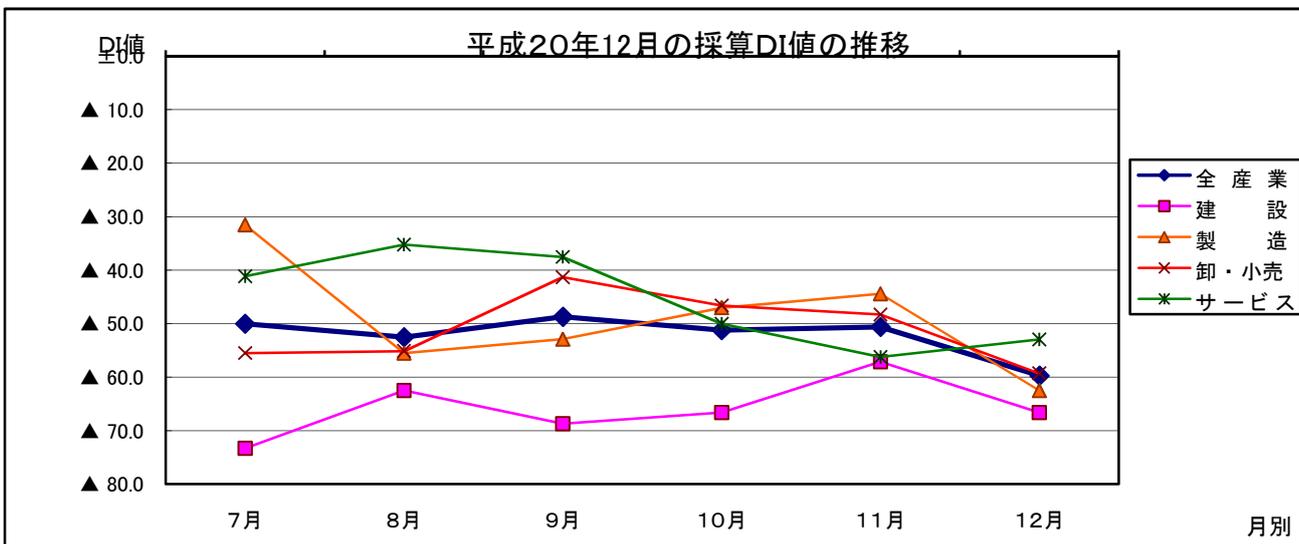
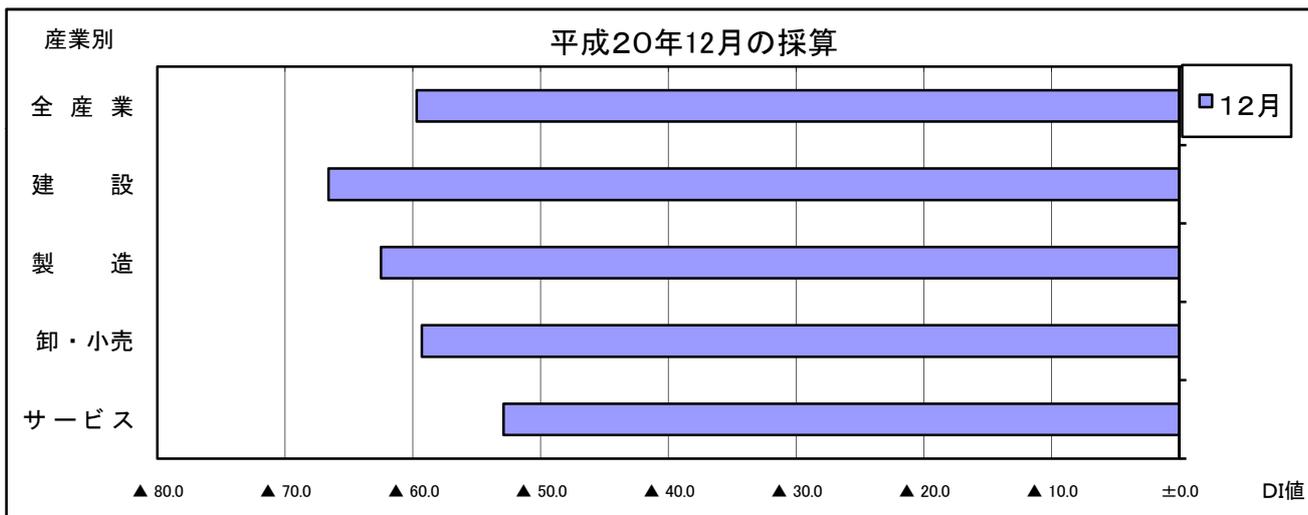
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲52.9(同▲56.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲62.5(同▲44.4)、卸小売業▲59.3(同▲48.3)、建設業▲66.6(同▲57.1)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲49.3(前月水準▲48.1)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲29.4(同▲68.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲68.7(同▲50.0)、卸小売業▲46.8(同▲32.2)、建設業▲58.3(同▲57.1)である。

平成20年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月 (12月~2月)
全産業	▲50.0	▲52.5	▲48.7	▲51.2	▲50.6	▲59.7	▲49.3 (▲48.1)
建設	▲73.3	▲62.5	▲68.7	▲66.6	▲57.1	▲66.6	▲58.3 (▲57.1)
製造	▲31.5	▲55.5	▲52.9	▲47.0	▲44.4	▲62.5	▲68.7 (▲50.0)
卸・小売	▲55.5	▲55.1	▲41.3	▲46.6	▲48.3	▲59.3	▲46.8 (▲32.2)
サービス	▲41.1	▲35.2	▲37.5	▲50.0	▲56.2	▲52.9	▲29.4 (▲68.7)



【平成20年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.1(前月水準▲45.5)となり、マイナス幅が△14.4ポイント縮小した。

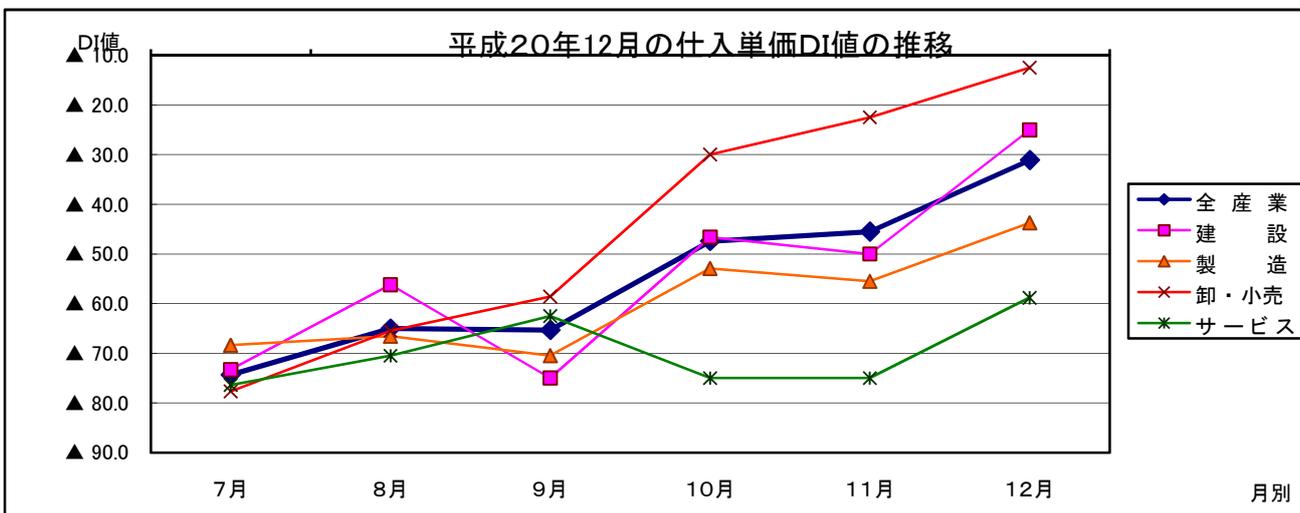
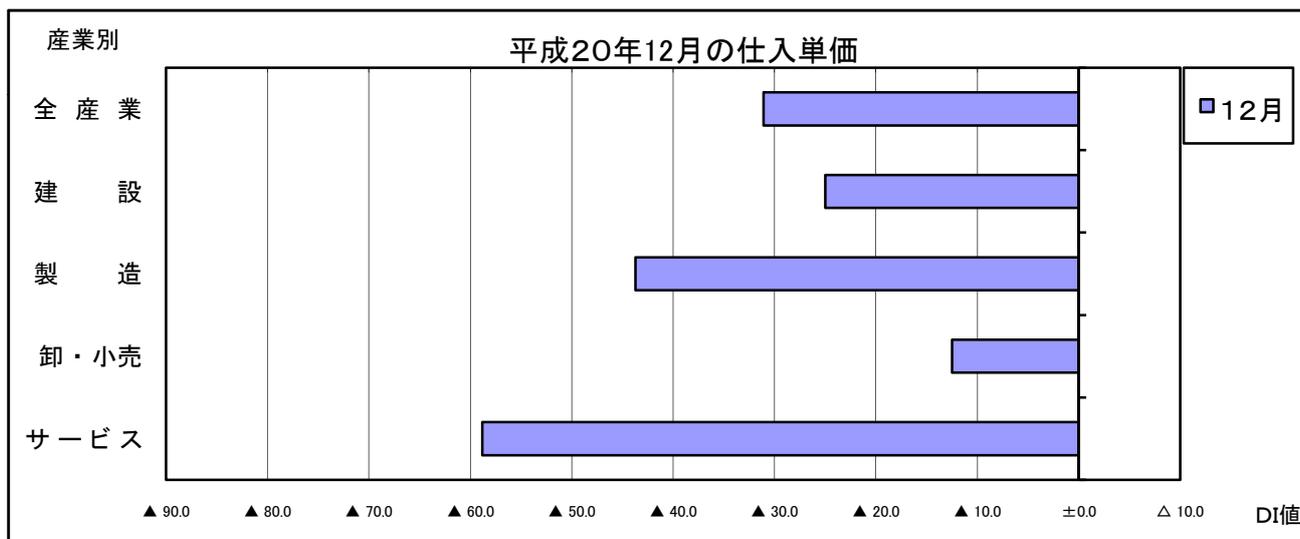
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲25.0(同▲50.0)、サービス業▲58.8(同▲75.0)、製造業▲43.7(同▲55.5)、卸小売業▲12.5(同▲22.5)である。特に、建設業はマイナス幅が△25.0ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.8(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が△8.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.4(同▲62.5)、建設業▲16.6(同▲28.5)、卸小売業▲6.2(同▲9.6)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△33.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲25.0(同▲16.6)である。

平成20年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月 (12月~2月)
全産業	▲ 74.3	▲ 65.0	▲ 65.3	▲ 47.4	▲ 45.5	▲ 31.1	▲ 16.8 (▲ 25.3)
建設	▲ 73.3	▲ 56.2	▲ 75.0	▲ 46.6	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 16.6 (▲ 28.5)
製造	▲ 68.4	▲ 66.6	▲ 70.5	▲ 52.9	▲ 55.5	▲ 43.7	▲ 25.0 (▲ 16.6)
卸・小売	▲ 77.7	▲ 65.5	▲ 58.6	▲ 30.0	▲ 22.5	▲ 12.5	▲ 6.2 (▲ 9.6)
サービス	▲ 76.4	▲ 70.5	▲ 62.5	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 29.4 (▲ 62.5)



【平成20年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.5(前月水準▲6.3)となり、マイナス幅が△3.8ポイント縮小した。

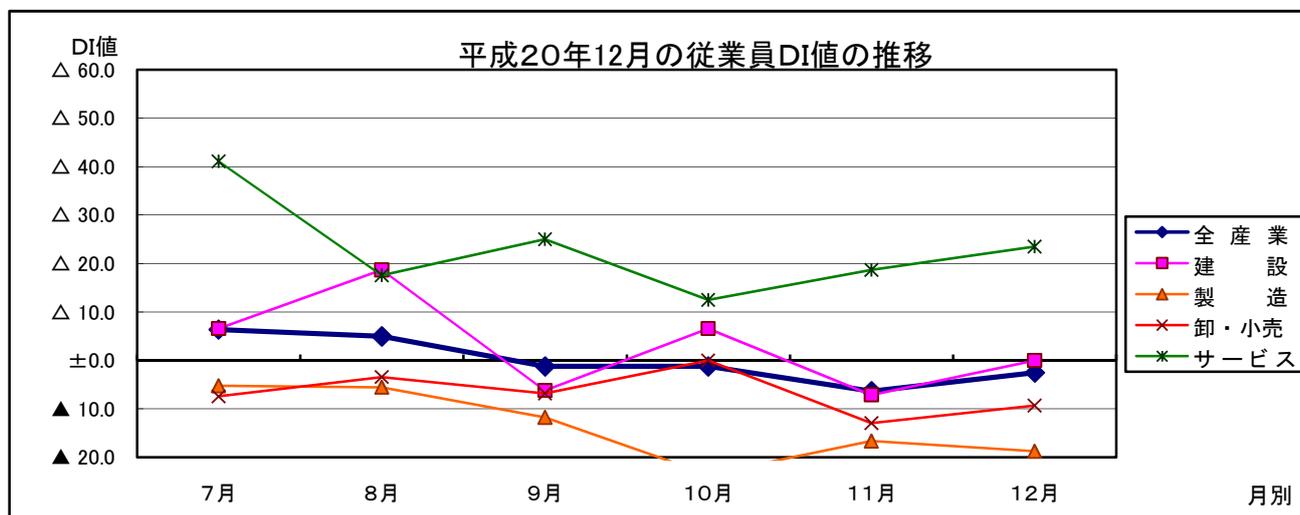
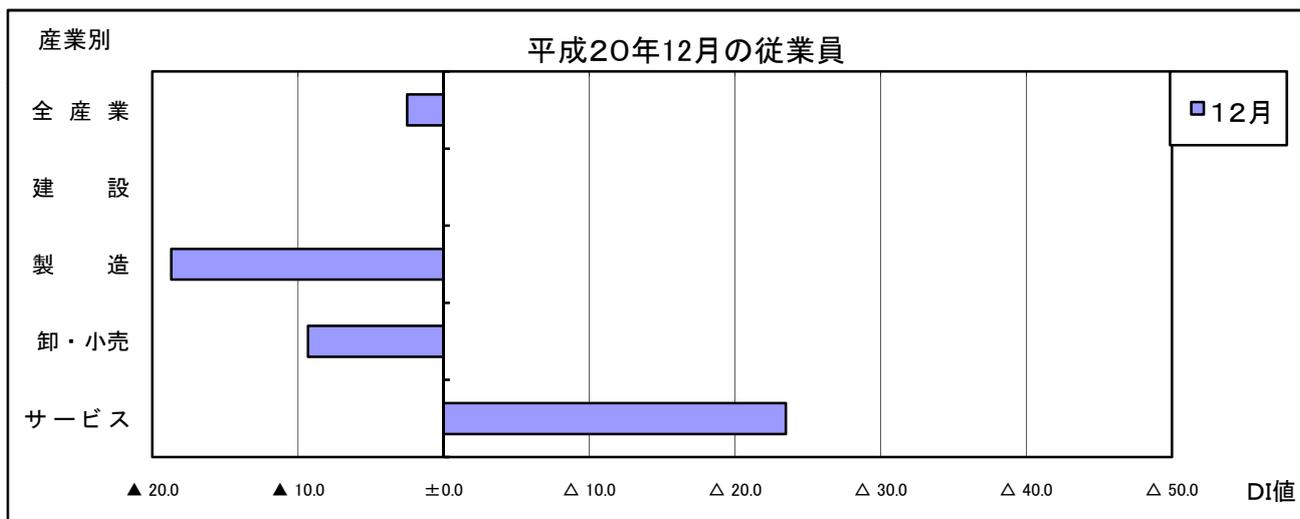
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△23.5(同△18.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲7.1)、卸小売業▲9.3(同▲12.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲18.7(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.5(前月水準▲2.5)となり、変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△8.3(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲3.1(同▲9.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△29.4(同△31.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲43.7(同▲22.2)であり、マイナス幅が▲21.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	△6.4	△5.0	▲1.2	▲1.2	▲6.3	▲2.5	▲2.5(▲2.5)
建設	△6.6	△18.7	▲6.2	△6.6	▲7.1	±0.0	△8.3(±0.0)
製造	▲5.2	▲5.5	▲11.7	▲23.5	▲16.6	▲18.7	▲43.7(▲22.2)
卸・小売	▲7.4	▲3.4	▲6.8	±0.0	▲12.9	▲9.3	▲3.1(▲9.6)
サービス	△41.1	△17.6	△25.0	△12.5	△18.7	△23.5	△29.4(△31.2)



【平成20年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.4(前月水準▲36.7)となり、マイナス幅が▲8.7ポイント拡大した。

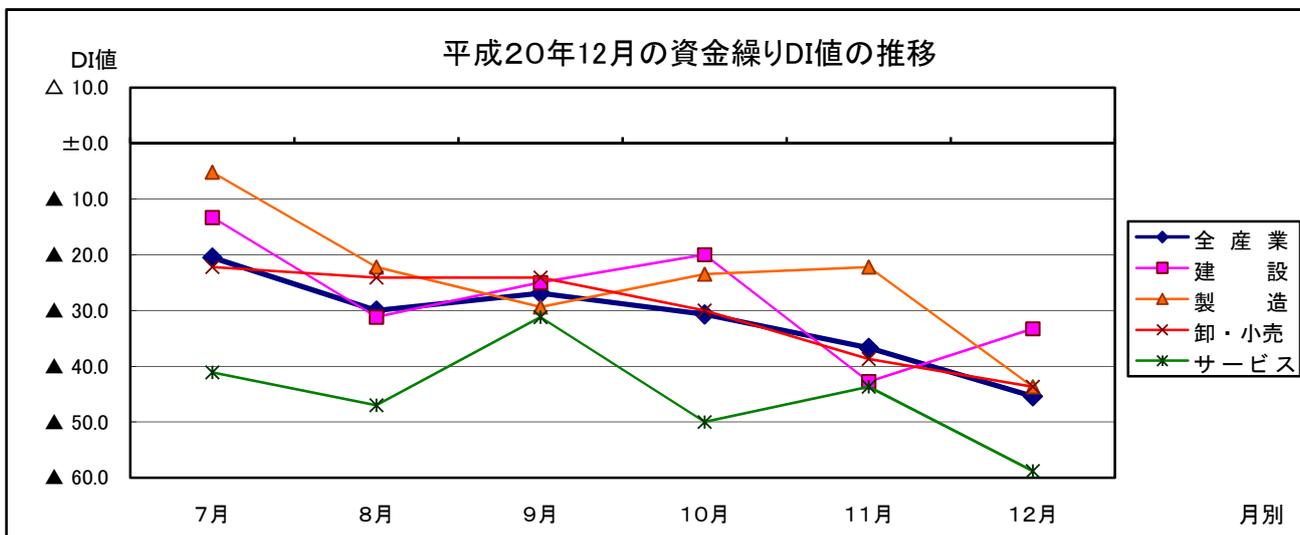
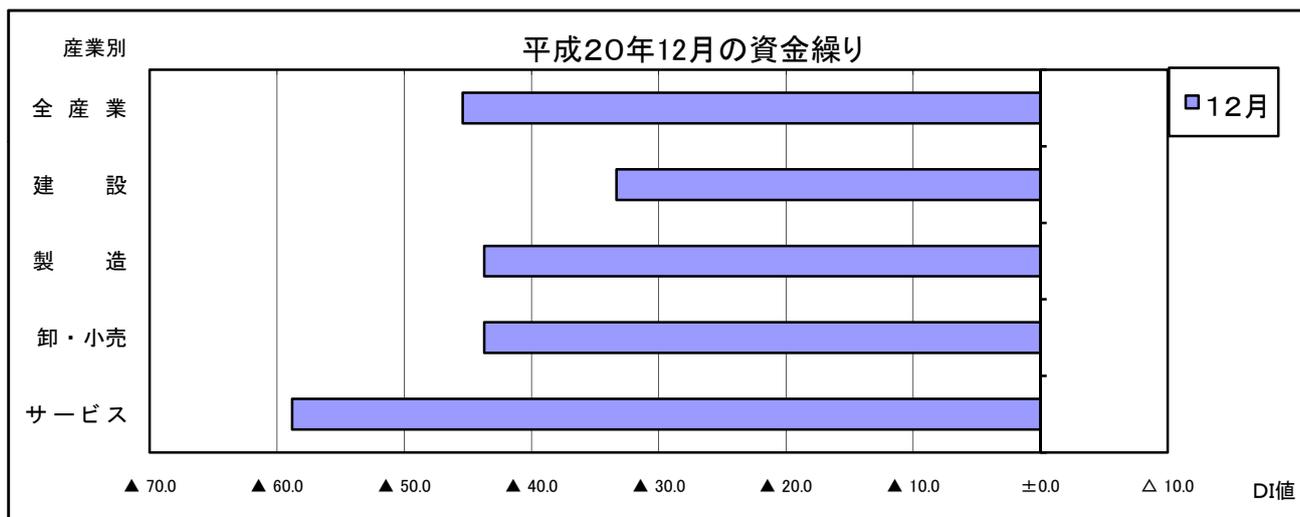
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲43.7(同▲22.2)、サービス業▲58.8(同▲43.7)、卸小売業▲43.7(同▲38.7)であり、特に、製造業はプラスマイナス幅が▲21.5ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲41.5(前月水準▲31.6)となり、マイナス幅が▲9.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が拡大する見通し。幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲33.3)、サービス業▲52.9(同▲37.5)、卸小売業▲34.3(同▲29.0)、建設業▲33.3(同▲28.5)である。

平成20年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲20.5	▲30.0	▲26.9	▲30.7	▲36.7	▲45.4	▲41.5(▲31.6)
建設	▲13.3	▲31.2	▲25.0	▲20.0	▲42.8	▲33.3	▲33.3(▲28.5)
製造	▲5.2	▲22.2	▲29.4	▲23.5	▲22.2	▲43.7	▲50.0(▲33.3)
卸・小売	▲22.2	▲24.1	▲24.1	▲30.0	▲38.7	▲43.7	▲34.3(▲29.0)
サービス	▲41.1	▲47.0	▲31.2	▲50.0	▲43.7	▲58.8	▲52.9(▲37.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 41.5	▲ 45.4	▲ 59.7	▲ 49.3	▲ 31.1	▲ 16.8	▲ 2.5	▲ 2.5
建設	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 66.6	▲ 58.3	▲ 25.0	▲ 16.6	±0.0	△ 8.3
製造	▲ 43.7	▲ 62.5	▲ 62.5	▲ 68.7	▲ 43.7	▲ 25.0	▲ 18.7	▲ 43.7
卸・小売	▲ 40.6	▲ 43.7	▲ 59.3	▲ 46.8	▲ 12.5	▲ 6.2	▲ 9.3	▲ 3.1
サービス	▲ 47.0	▲ 29.4	▲ 52.9	▲ 29.4	▲ 58.8	▲ 29.4	△ 23.5	△ 29.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 63.6	▲ 55.8	▲ 45.4	▲ 41.5
建設	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 33.3	▲ 33.3
製造	▲ 68.7	▲ 68.7	▲ 43.7	▲ 50.0
卸・小売	▲ 62.5	▲ 46.8	▲ 43.7	▲ 34.3
サービス	▲ 70.5	▲ 58.8	▲ 58.8	▲ 52.9

【平成20年12月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	この不況では、不動産業界・建設業界は一番先に手控えられるので大変な状況	・業界不況	一般土木建築工事業
	いろいろな面で先行き不安感が高まる	・先行き不安	一般土木建築工事業
	今年は何とか乗り切れる予定だが、来年1月からの業況は全く予想ができない現状。政治の不安、マスコミの過大放送が影響しているように思われる。	・先行き不安 ・政治不安 ・マスコミ過大報道	管工事業(さく井を除く)
	原油高・米国金融不安は直接影響はないものの、お客様の心理不安による買い控えが多い。故障などによる緊急の工事はあるが、先行の設備工事は少ない。	・先行き不安 ・消費意欲の低下 ・設備工事減少	電気工事業
製造	新規建物が減少、建築士法及び建築基準法改正による確認申請の遅れあり、市場の景気の悪化。	・新規建物減少 ・建築法改正の影響 ・業況悪化	一般産業用機械設備製造業
	世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者も仕事を集めるのに苦労している状態。企業の死活問題になるぎりぎりとの声も聞こえ始めている。	・業況悪化 ・受注確保困難 ・死活問題	その他の機械・同部分品製造業
	マンション・倉庫等の計画中止が続いている。来年はかなり厳しい状況になる。しかし将来への投資は続け行きたい。	・建設計画中止 ・厳しい業況	生コンクリート製造業
卸小売	消費を促進するような要素が何もないように思う	・好材料なし	食料・飲料卸売業
	団塊の世代のシェアが他地域より大きい当地域において、金融証券市場の混迷は将来に大きな不安をもたらすものです。それが食料品以外の商品に対する購買を控えるという購買意欲に表れています。また、現役世代も売上の大幅減や望み薄の昇給などから同様です。こうした購買は当分	・金融不安 ・消費意欲の低下 ・個人収入減少	百貨店
	ファッションマーケットの規模がかなり縮小している。また、小売りの飽和状態が厳しさに拍車をかけている。近隣市町村からの来店者が大幅減少。	・衣料品市場縮小 ・小売店飽和状態 ・来店客数減少	百貨店
	昨今の経済情勢に厳しさが増し、消費者も敏感になって青果物の購買についても、少量買いの傾向になっています。青果卸の現状は入荷減の単価安は依然として続いています。一部の品目には単価高もあります。本来はお歳暮や年末年始に向けて、入荷量が増えて活気あることに期待する時期であります。いずれにしても安心安全の青果物を提供すべく、丁寧にお客様へ販売していくことに傾注していきます。	・経済情勢悪化 ・少量買い ・青果入荷減単価安 ・季節商品 ・安心安全	食料・飲料卸売業
	引き続き売上は増加しているが、タバコの売り上げ増を除くと、他の商品は伸びていない。金融不安雇用不安等の影響が今後出てくるものと予想される。そんな中でも今夏から導入したFFフライヤー商品が売り上げにプラスをもたらしている。	・売上横ばい ・金融不安	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	消費者の財布のひもが固い。他店との価格の比較購入が顕著である。移転しても様子見だけで帰る顧客が出てきた(即決しない・できない)夕方の顧客の上がりが早くなった。例年と比べ予算は少ないが、クリスマス用品はまあまあです。	・比較購入 ・消費意欲の低下 ・売上減少 ・クリスマス商戦	その他の飲食料品小売業

【平成20年12月の業種別業界内トピックス】

	断腸の思いで2度にわたり、価格値上げを実施したが、サウジCP価格大暴落を受け、環境が好転し1月検針から値下げ改定を履行できるまでになった。となると再度エネルギー間競争や同業他社問題等も激化し、別の意味での苦しさが始まる。一早い情報収集が必要である	・価格値上げ ・原油値下げ ・同業者との価格競争	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	賞与月にも関わらず、景況は一段と悪くなっている。年末イベントを立ち上げたが、まったく盛り上がらない。	・賞与効果なし ・業況悪化 ・年末イベント不調	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	12月度は月初入店客数は前年並みの推移となったが、売上高は前年を下回る推移となった。2週目以降雇用不安の影響から個人消費が一段と冷え込んだ感があり、入店客数・売り上げ共に苦戦した。後半のクリスマス商戦では、イベント等でクリスマスムードを盛り上げるとともに、クリスマスプレゼント商材の提案を軸に接客を強化し、売上に繋げていく。	・客数前年並み ・売上減少 ・消費意欲の低下 ・クリスマス商戦	各種商品小売業
	商店会の歳末売出しの福引券の売り上げが昨年より二割以上減となった。すなわち、個人店の売上は2割減は確定と思う。	・売上減少 ・年末イベント不調	書籍・文房具小売業
サービス	政治経済の不安から先が見えてこない。消費動向も上がっては来ない。いつまで営業できるか不安である。	・消費意欲の低下 ・先行き不安	食堂・レストラン
	宿泊は稼働率減。単価微減。売り上げ・利益減。宴会は売上増。コストアップ。利益は減	・宿泊減少 ・宴会増 ・コストアップ ・利益減少	ホテル
	売上が非常に落ちている。人手不足や客数の減少、さらなる厳しい状況が来年もまた続く。近隣の大型店舗もやめていくこの状況の中で維持していくのが難しい。	・客数減少 ・売上減少 ・厳しい業況	そば・うどん店
	原材料高騰が続いている。この先の変化が読めない。	・原材料高騰 ・先行き不安	獣医業

◎先行き不安

- ・ いろいろな面で先行き不安感が高まる (一般土木建築工事業)
- ・ 今年は何とか乗り切れる予定だが、来年1月からの業況は全く予想ができない現状。 (家庭用機械器具小売業)
- ・ 原油高・米国金融不安は直接影響はないものの、お客様の心理不安による買い控えが多い。 (電気工事業)
- ・ 政治経済の不安から先が見えてこない。いつまで営業できるか不安である。 (食堂・レストラン)
- ・ 原材料高騰が続いている。この先の変化が読めない。 (獣医業)

◎消費意欲の低下

- ・ 団塊の世代のシェアが他地域より大きい当地域において、金融証券市場の混迷は将来に大きな不安をもたらす。それが食料品以外の商品に対する購買を控えるという購買意欲に表れている。また、現役世代も売上の大幅減や望み薄の昇給などから同様。こうした購買意欲の低下は当分続くものと思 (百貨店)
- ・ 消費者の財布のひもが固い。他店との価格の比較購入が顕著である。移転しても様子見だけで帰る顧客が出てきた(即決しない・できない)夕方の顧客の上がりも早くなった。 (その他の飲食料品小売業)
- ・ 12月度は月初入店客数は前年並みの推移となったが、売上高は前年を下回る推移となった。2週目以降雇用不安の影響から個人消費が一段と冷え込んだ感があり、入店客数・売り上げ共に苦戦した。 (各種商品小売業)
- ・ 消費動向も上がっては来ない。 (食堂・レストラン)

◎業況悪化

- ・ 世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者も仕事を集めるのに苦労している状態。 (その他の機械・同部分品製造業)

平成20年12月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲63.6に対し、「CCI-LOBO」が▲70.2で、柏の方がマイナス幅が6.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲41.5に対し、「CCI-LOBO」が▲60.4で、柏の方がマイナス幅が18.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種において10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲59.7に対し、「CCI-LOBO」が▲64.4で、柏の方がマイナス幅が4.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.1に対し、「CCI-LOBO」が▲40.4で、柏の方がマイナス幅が9.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.5に対し、「CCI-LOBO」が▲16.3で、柏の方がマイナス幅が13.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.4に対し、「CCI-LOBO」が▲45.9で、柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。

平成20年12月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 63.6	 50.0	 68.7	 62.5	 70.5
CCI LOBO	 70.2	 74.2	 72.7	 69.2	 67.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 41.5	 33.3	 43.7	 40.6	 47.0
CCI LOBO	 60.4	 63.1	 59.2	 58.7	 61.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 59.7	 66.6	 62.5	 59.3	 52.9
CCI LOBO	 64.4	 66.4	 68.3	 61.4	 65.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.1	 25.0	 43.7	 12.5	 58.8
CCI LOBO	 40.4	 46.6	 42.4	 35.5	 44.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.5	 ±0.0	 18.7	 9.3	 23.5
CCI LOBO	 16.3	 30.3	 22.9	 8.5	 10.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 45.4	 33.3	 43.7	 43.7	 58.8
CCI LOBO	 45.9	 56.8	 50.1	 38.2	 44.3

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(12月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年12月15日～19日

調査対象：柏市内109事業所及び組合にヒアリング、回答数 78

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
見通し	▲55.8	▲58.3	▲68.7	▲46.8	▲58.8

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況口が再度60ポイント台へ、先行き不安感がさらに深まる

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、63.6(前月水準55.6)よりマイナス幅が8.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業(50.0)同(50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業(70.5)同(56.2)、製造業(68.7)同(55.5)、卸小売業(62.5)同(58.0)である。

【建設業】では、「この不況では不動産業界・建設業界は一番先に手控えられるので大変な状況」(一般土木建築事業)、「政治的不安・マスコミの過大放送が影響しているように思われる」(管工事業)、「故障などによる緊急の工事はあるが、先行の設備工事は少ない」(電気工事業)といった業界不況に関するコメントが寄せられた。

【製造業】では、「新規建物が減少、建築工法及び建築基準法改正による確認申請の遅れあり、市場の景気の悪化」(一般産業用機械設備製造業)、「企業内の死蔵問題で、ぎりぎりの声も聞こえ始めている」(その他の機械・同部品製造業)、「マンション・倉庫等の計画中止が続いている」(生コンクリート製造業)等のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「消費を促進するよう必要な要素が何もないように思う」(食料・飲料卸売業)、「ファッションマーケットの規模がかなり縮小している。また、小売りの飽和状態が厳しさに拍車をかけている。近隣市町村からの来店者が大幅減少」(百貨店)、「昨今の経済情勢に厳しさが増し、消費者も敏感になって青果物の購買についても、少量買いの傾向になっていきます。青果卸の現状は入荷減の単価安は依然として続いています」(食料・飲料卸売業)、「商店会の歳末売出しの福引

券の売り上げが昨年より1割以上減となった。すなわち、個人店の売上の2割減は確定と思う」(書籍・文具・小売業)といった厳しい現状への様々なコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊は稼働率減、単価微減、売り上げ・利益減、宴会は売上増、コストアップ。利益は減」(ホテル)、「近隣の大型店舗もやめていくこの状況の中で維持していくのが難しい」(そば・うどん店)などのコメントが寄せられた。

12月の景気キーワード

先行き不安

各業種から、いろいろな面で先行き不安感が高まる。「一般土木建築事業」は、今年は何とかが乗り切れる予定だが、来年1月からの業況は全く予想ができない現状」(家庭用機械器具小売業)、「原油高・米価金融不安の直接影響はないものの、お客様の心理不安による買い控えが多い」(電気工事業)、「政治経済の不安から先が見えてこない。いつまで営業できるか不安である」(食堂・レストラン)、「原材料高騰が続いている。この先の変化が読めない」(獣医療など)、「見通しのつかない現況に対する声が多くあがってきている」。

消費意欲低下と受注減少

各業種から「団塊の世代のシエ

アが他地域より大きい当地域において、金融証券市場の混迷は将来に大きな不安をもたらす。それが食料品以外の商品に対する購買を控えるという購買意欲に表れている。また、現役世代も売上の大幅減や望み薄の昇給などから同様。こうした購買意欲の低下は当分続くものと思う」(百貨店)、「消費者の財布の紐が固い。他店との価格の比較購入が顕著である。移転しても様子見だけで帰る顧客が出てきた(即決しない。できない)タ方の顧客の上がり及早くなった」(その他の飲食料品小売業)、「12月度の月初入店客数は前年並みの推移となったが、売上高は前年を下回る推移となった。2週目で降雇不安の影響から個人消費が一段と冷え込んだ感があり、入店客数・売り上げ共に苦戦した」(各種商品小売業)といった声が多く寄せられた。

業況悪化

各業種から「世間の景気悪化の影響が出ている。関係業者も仕事を集めるのに苦労している状態」(その他の機械・同部品製造業)、「来年はかなり厳しい状況になる。しかし将来への投資は続けたい」(生コンクリート製造業)、「賞与月にも関わらず、景況は一段と悪くなっている。年末イベントを立ち上げたが、まったく盛り上がりがない」(その他の各種商品小売業)、「売上が非常に落ちてい

る。人手不足や客数の減少、さらなる厳しい状況が来年もまた続く」(そば・うどん店)など、厳しさをます業況に対するコメントが寄せられた。

CCI・LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が63.6に対し、「CCI・LOBO」が70.2で、柏の方がマイナス幅が6.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成20年12月15日～19日
 調査対象：全国の404商工会議所が2577業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、1989年4月の調査開始以来、最悪の水準

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(66.7)よりマイナス幅が3.5ポイント拡大して70.2となり、89年4月の調査開始以来最悪の水準となった。

産業別の業況DIは、卸売でマイナス幅が横ばい、他の4業種は拡大した。中でも、製造、サービスは調査開始以来最悪の水準。

景気に関する声、当面する問題としては、原油や一部原材料価格の下落により、採算の改善を期待といった声があるものの、受注の大幅な減少や、消費マインズの冷え込みにより、収益面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響による先行きへの不安や、更なる売上の減少、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声が多に多い。このため、雇用面では過剰感が前月から大幅に強まっており、今後は倒産・廃業の増加を懸念する声が各業種から寄せられている。

【建設業】「受注、収益とも好転の兆しは全くなく、従業員も過剰状態」(一般事業)、「住

宅関連の受注の減少が続く一方金融機関の貸し渋りにより資金繰りが悪化」(一般事業)、「材料価格の高騰は落ち着いてきたが、依然として公共・民間工事ともに低迷し、収益が減少」(建築事業)

【卸売業】「百貨店、量販店ともに売上が低調なため、発注量が少なく、収益は前年に比べ大幅に減少」(織物製造業)、「急激な業況悪化の影響は大きく、今後この状況が続くと人員削減も必要な状況」(産業用電気機械製造業)、「急速な受注の減少から経営が圧迫され、回復の目途も立たない状況」(自動車・付属品製造業)

【卸売業】「円高の影響による輸出の減少に加え、資材価格の高止まりが採算に悪影響」(農畜産水産物卸売業)、「建築関係は「事業量が少なく、先行きが不安」(建築材料卸売業)、「お歳暮向けの高級品の売上が低迷し、収益が減少」(食料・飲料卸売業)などの声が寄せられている。

【小売業】「不況感から消費者の生活防衛意識が高まり、低価格志向が顕著」(百貨店)、「売上が減少し、個人商店の廃業が相次いでいる」(その他の小売業)、「厳しい昨年に比べ、売上は3割程度、特に高額商品の売上が低迷」(商店街)

【サービス業】「食材・包装容器の高騰は一段落したが、来店者数の減少が続く、今後も厳しい状況となる見込み」(喫茶店)、「自動車関連企業の低迷に伴い会議・宿泊が減少し、売上に大きく影響」(旅館)、「売上の減少は今まで経験したことがないほど厳しい」(理容業)

土月のキーワード

受注の大幅な減少

各業種から、業況の悪化や、米国金融危機の影響に伴う受注の大幅な減少、売上の悪化を訴える声が寄せられている。建設業からは、「景気悪化のため、顧客の事業計画が中止となるなど、収益の確保が困難な状況」(米沢・建築事業)、「住宅関連の受注が少なく、例年に比べて売上が減少」(さいたま・積石事業)、「製造業からは、「景気悪化に伴う自動車生産台数の大幅な減少により、自動車関連事業の受注も軒並み減少傾向」(米沢・通信機械器具製造業)、「金融不安の影響で受注のキャンセルが発生するなど、特に輸出向けの売上確保が困難」(横浜・他の輸送用機械製造業)などの声が寄せられている。

消費マインズの冷え込み
 食料品をはじめとする諸物

価の高騰や、米国金融危機の影響に伴う今後への不安感から消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「お歳暮商戦の売上も苦戦しており、収益の確保が一層困難な状況」(盛岡・百貨店)、「来客数は前年同様だが、一人当たりの購入点数・単価は減少」(渋川・百貨店)、「賞与月にも関わらず、年末イベントは全く盛り上がりせず、業況は一段と悪化」(柏・商店街)、「サービス業からは、「忘年会の激減や低価格のチェーン店の進出により、売上が悪化」(館山・食堂・レストラン)、「円高の影響で外国人客の予約のキャンセルが増加傾向」(京都・旅館)といった声がある。

先行き不安感の拡大

こうした売上の低迷に伴う業況の悪化などから、先行きへの不安を訴える声も寄せられている。製造業からは、「仕事量の大幅な減少に加え、原材料費も高止まりで来年は営業を続けていくことが困難な状況」(水戸・金属加工機械製造業)、「自動車メーカーの大幅な減産計画により受注の減少は明白で、今後の見通しも不透明」(佐野・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、小売業からは、「県内製造業の従業員削減に伴い、消費低迷などの悪影響を懸念」(宇都

宮・百貨店)、「12月に入っても商店街の人通りは少なく、年末始も厳しい状況が予想されるなど、先行きへの期待感はない」(豊橋・商店街)、「サービス業からは、「11月下旬から宿泊の予約が急激に減少し、今後の売上は前年を大きく下回る見通し」(札幌・旅館)との声もある。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲60.5	▲73.2	▲61.3	▲64.5	▲54.4	▲56.8
8月	▲58.8	▲71.4	▲55.4	▲64.7	▲58.9	▲51.4
9月	▲61.2	▲70.8	▲59.8	▲59.7	▲59.2	▲59.7
10月	▲64.6	▲71.1	▲59.8	▲63.8	▲64.4	▲65.9
11月	▲66.7	▲70.0	▲68.3	▲67.6	▲64.8	▲64.6
12月	▲70.2	▲74.2	▲72.7	▲67.6	▲69.2	▲67.3
見通し	▲71.6	▲75.3	▲73.9	▲69.7	▲69.4	▲70.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI